

自然環境を破壊



悲鳴をあげる最終処分場（八日市場市松山）

日本のごみ処理は、「燃やして埋め立てる」が基本です。この埋め立てる場所を最終処分場といいます。

最終処分場の悲鳴が聞こえる

今、その最終処分場の多くが危機的な状況にあり、町も例外ではありません。光町・八日市場市・野栄町・多古町の1市3町で設置している八日市場市ほか三町環境衛生組合の最終処分場も昭和44

年から操業され、今年で24年目を迎えますが、埋め立てる場所が残り少なくなりこのままの処理状況でいくと、あと10年ぐらいで処理できなくなります。ごみ問題はリサイクルだけでは解決できません。ごみを減らす行為と併せて始めて解決できる問題なのです。

ごみを減らす方法

◎環境にやさしい商品（再生品）をできるだけ生活に浸透させる。
◎ごみの中で代表的な台所のごみの出し方を工夫し、減量化を図る。例えば、食べ物を残さないようにしたり、材料のむだをなくす。（大根の葉や魚の頭などは工夫次第では、おいしい一品料理になります。）
◎ほしい物を使い終わった後、すぐにごみになるのかどうか考えてみる。例えば、過剰包装や使い捨て商品などを使用しないよう生活様式を改めて考え直す。（今、アメリカでは、リサイクルする前からごみを出さないように考えるプレサイクル運動（注））が始められています。

◎使用している物を途中で捨てたりしないで最後まで使う。（「また買えばいい。」という考えをやめ、愛情をもって日用品と付合う。）
◎捨てる前にもう一度使えないかどうか考えてみる。例えば、使えるものをすぐ捨てたりせず、修理や部品交換して、長持ちさせる。このように、日常生活上でも私たちにできることは多くあります。そして、ここに出した「ごみを減らす方法」は一例にすぎません。どうか一人ひとりが生活のなかで工夫して、ごみの減量化をしようではありませんか。
【注】リサイクルを行う前からごみを出さないように考えること。

廃棄物(ゴミ)の分類

私たちが現在ゴミとして出している廃棄物を分類すると、このようになります。

